



本年度は、バーカー PR (勝手にやります〜)

最近のおえりのペンギンバーカーさん

朝食はパン派なので、食パンを購入しますが、

おススメは、カレーパン (3~4種あります) と、意外とコロッケが美味
2月は節分とかバレンタインがあり、節分には、おにパン・金棒パン等

バレンタインには、チョコを使用した、限定パンが販売されます。

他にも、美味しいパン沢山ありますよ〜!!

七福神について



今回は七福神についてご紹介したいと思います。

七福神の由来

七福神のうち、六つの神さまたちは、平安から室町の時代にかけてインド、中国から日本に伝えられてきました。室町時代後期には、ももとの日本の神さまである恵比寿さんと合わせて、合計七つの神さまが七福神として信仰されるようになりました。それぞれの神さまにはそれぞれ独自の利益がありますが、七福の「七」には「たくさん」という意味があります。

七福神の名前とご利益

1 恵比寿 (えびす)

「鯛を釣ってる えびす」

ご利益

・商売繁盛・除災招福・大漁豊作

七福神はインドや中国の神さまが多いのですが、恵比寿は唯一の日本の神さまです。イザナギ、イザナミの子である蛭子命 (ひるこのみこと) であるとか、または大國主命の事代主神 (ことしろぬしかみ) であるとされています。

初めは海の神さま。それで鯛を持っています。鎌倉時代頃から商売繁盛の福神ともなりました。

2 大黒天 (だいこくてん)

「袋をかついだ だいこく」

ご利益

・五穀豊穰・子孫繁栄・出世開運

インドではマ、ハーカラという神さま (「大いなる暗黒」という意味です)。

ヒンドゥー教の最高神、シヴァ神の化身の一つです。平安時代に、最澄が中国から密教とともに日本に持ち帰り、天台宗・真言宗・日蓮宗で特に信仰されました。

日本では、国造りの神さまの大國主命と習合 (混同、同一視) して「豊饗の神さま」になっています。

*大黒さまが背負っているふくろは、何でもほしいものが出てくる福袋。手にしているのは、振れば何でも出てくる打ち出の小づちです。

3 毘沙門天 (びしゃもんてん)

「やりを持つてる びしゃもんてん」

ご利益

・大願成就・降魔厄除・財宝富貴

もともとはインドのクベラという財宝の神さま。中国に伝わると仏教を守護する四天王の一つ多聞天とされて、武神、守護神となりました。

*単独でまつられているとき、毘沙門天と呼ばれます。日本では平安時代に伝来。庶民には本来の「富の神」として人気となりました。悪霊退散、知恵と勇気の神さまでもあり、武将からは「勝負の神」として信仰されました。

4 弁財天 (べんざいてん)

「紅一点の べんてん」

ご利益

・諸芸上達・学徳成就・恋愛成就

インドのヒンドゥー教の水の神さまサラスヴァティが、仏教に取り入れられ弁財天になりました。短くして弁天ともいいます。

5 布袋尊 (ぼていそん)

「おなかの大きな ぼていおしょう」

ご利益

・千客万来・家運隆盛・家庭円満

中国、唐の時代のお坊さん。実在の人物でした。住まいを定めず、心の真実の大切などを説きながらほどこしを受け、それを背中に背負った大きな袋に入れていました。

雪の中に寝ても、布袋和尚の体には雪が積もらなかったなどの言い伝えがあり、死後、弥勒菩薩の化身と考えられるようになりました。

日本には鎌倉時代に神画として紹介され、大きなおなかや袋、おらかな笑顔などから福徳、人望、富貴繁栄の神さまとなりました。

*布袋さんの大きな袋は「堪忍袋 (かんにんぶくろ)」。人を許したり、我慢したりする度量の大きさをあらわしています。

6 福寿寿 (ふくろくじゅ)

「頭の長い ふくろくじゅ」

ご利益

・財運招福・長寿延命・招徳人望

中国の道教の神さまです。実子に恵まれるという幸福、財産、健康長寿の三つの徳を表していると考えられます。

*福星・禄星・寿星の三星を神格化した神さまとして信仰されています。

日本には、鎌倉・室町時代に中国の神さまの画 (絵) として伝来。福、徳、長寿の神さまになりました。

7 寿老人 (じゅうろうじん)

「年をとってる じゅうろうじん」

ご利益

・長寿幸福・家庭円満・福徳知恵

中国の伝説では、道教の修行をして、不老不死の仙人 (神仙) になったとされています。南極老人星の化身。

日本には鎌倉時代に伝えられ、仙人の姿で、長寿のシンボルである桃、自然との調和のシンボルの杜松を従えていることが多いです。

(ネットより)

福がたくさん訪れますように。



よもやまばなし

弥生：梅の間

毎年、春の訪れを感じる頃ですが、今年はまだ風がとても冷たくてトレンチの出番はもう少し後になりそうです。しかし、「暑さ寒さも彼岸まで」とは言うので早く暖かくなって欲しいですね〜♪今月からErikaが加わりました!。みなさまお見知り置きを〜!

My Travel Journal

初めましてErikaです。営業部で主にデジタルコンテンツを担当しています! (公式Instagramぜひフォローしてください@udng_design) はじめての「よもやまばなし」正直何を書こうか迷っていました。ゴルフ、キャンプ、サッカー観戦、旅行…考えてみたら趣味が多い (笑) その中でも「私の旅行記」と題して、「行ってよかった」デザイナーズホテルのお話しをしようと思います!

今回ご紹介するのは、ブックホテル「箱根本箱」です。

箱根本箱は「本に囲まれて暮らすように滞在する」をコンセプトに、本棚に囲まれて非日常を味わえる新しい宿泊施設、いわば大人のための「秘密基地」です! 館内にはなんと約12,000冊 (!?) にのぼる本が置かれ、暮らしに彩りを添える「衣・食・住・遊・休・知」の6ジャンルを中心に選書されています。さらに本をインテリアとして捉えるのではなく、全て購入することができるのがこだわりなんだとか。また至る所にさりげなく名作椅子が置かれ、「こもる」スペースでは本棚の中に入って本を読むこともできる。まさに非日常…その世界観に魅了されていたところで、私は気づきました。「テレビと時計がない」衝撃でした。本当にどこにもないので。そりゃ時間を忘れて過ごせるわけだという感じです。さらに箱根本箱の魅力はこれだけではありません…何といっても日本有数の温泉地「箱根」全客室に温泉露天風呂付きで、大浴場も2つの泉質が楽しめる。読書に疲れたららんびり温泉へそんなこだわりが詰まった箱根本箱ですが、実は「あまり本は買わない」「最近では本はご無沙汰だなあ」という人にこそ是非来てほしい「本と人との出会いの場」なんだとか。「一冊の本から始まる新しい物語」ってなんか素敵ですよ。こんな忙しい世の中だからこそ、本と向き合い、自分を見つめなおすいい時間になりました。今度はどこへ行こうかな〜



Erika

バイキング



それは8世紀から11世紀に西ヨーロッパで隆盛を極めた海賊 (現在の英国の成り立ちにも影響している)

なぜか日本では、多くの種類の料理が用意され、好きなものを好きなだけ皿にとって食べるシステムをまず思い浮かべる (今ではビュッフェスタイルと呼ばれることが多い)

こちらのバイキングは、帝国ホテルがデンマークでの視察で知ったこの食事スタイルを取り入れて「インペリアルバイキング」の名でレストランを開業したのが始まりという

この二つの共通点を絞り出してみた

戦いである

征服という野望を抱き、大胆かつ緻密な策を立てて大いなる敵に挑む

人生である

生きるために食べる
食べるために働く
欲望が満たされる



ロマンである

この未知の大海原に漕ぎ出し、さあ豪快に暴れよう

ただし一つだけ気に留めた方が良さそう
繁栄は永くは続かない。見極めが肝要
歳相応に、程々に

2000

